

## D-1 成果と課題 詳細

### 成果

#### 伝え合う力の高まり

##### 表現する力・追究する力の向上

子どもたちが言語を通してかかわりあって学び、伝え合う力を高めていくために、2年間を通して、「いきいきと表現し合おう」と「とことん追究し合おう」という2つの合い言葉を子どもたちと作り、取り組んできた。単元のスタートでは、学級の実態をもとに目標を子どもと共有し、ゴールではその目標が達成できたことを認め合う経験を積み重ねた。そして単元の目標にせまるためには、基礎基本を学ぶ場、学び方を習得する場、思考を深める場を設定し取り組んできた。そうすることで、5年生のはじめには、伝え合うどころか、なかなか話すことさえしない子も多くいる実態だったが、6年生になると自分たちでよりよい表現の姿、追究の姿を設定し、伝え合う力を高めていくことができた。具体的に、子どもたちには以下のような力をつけることができた。

#### いきいき表現

- 「自分らしい言葉で話す」
- 「根拠をはっきりさせて話す」
- 「相手の考えを受け止め取り入れて話す」
- 「自分の主張をしっかりと話す」

#### とことん追究

- 「自分の考えを持ち、比べて聞く」
- 「友だちとつなげ、深め合う」
- 「より確かな自分の考えを再構築していく」

また、話し合いのチェックシート（P. 5）や学習日記の記述の様子で、基礎となる話す力・聞く力・話し合う力を評価していくことで、一人一人の子どもにつけたい力を明らかにしながら指導にあたることができた。さらに他学級の先生から教えていただいた下のアンケートを合わせて取り入れ、具体的な姿を子どもたちにイメージさせていくことで、確実に技能が向上していった。

いきいき表現・とことん追究をめざして 話し方・聞き方 アンケートの一部			Aの割合(%)	
			16年度 5年生 3月	17年度 6年生 3月
A 日常的にしている・できている B しようと意識している C できていない				
話し方	友だちとのつながり	「～さんの～という考えに似ている」と友だちの考えをとりあげて自分の考えを話すことができる。	45	85
		「～さんとは違って」と友だちの考えを取り上げて反対意見や違う意見を話すことができる。	35	72
		「～さんの～という考えから私は～と考えた」と友だちの考えを生かして自分の考えの深まりを話すことができる。	24	50
		「はじめは～と考えていたが、～さんの考えを聞いて～と考えが変わった」と自分の考えの変化を話すことができる。	40	58
聞き方	友だちの考えを聞き分ける	友だちの考えのキーワードを聞き取ることができる。	43	62
		友だちの立場を考えながら聞くことができる。	39	56
		友だちのいいたいこと(意図)を考えながら聞くことができる。	36	72
		自分の考えと比べながら聞くことができる。	30	68

### 自ら学ぶ力・自己評価力の向上

子ども自身が学びの「必要感」と明確な「めあて」を持つことができる単元の導入や、学びが生かされた実感、達成感のある単元のゴールを設定するなど、子どもとともにつけたい力を考え、学習を進めていくことで、自ら学ぶ力や自己評価力がついてきた。

また、自己評価（ノートのふり返し→学習日記）を活用することで「教師と子ども」、「子どもたち同士」が学びを共有することができ、伝え合う必要感を持ちながら、友だちとかわり合って学びを進める力がついた。

平成17年度に行われた金沢市学力調査における意識調査にも、自ら学ぶ力の高さが表れている。

		金沢市	2組
学びの基礎力	(全体)	60.1	70.0
	豊かな基礎体験	58.3	64.7
	学びに向かう力	73.2	83.8
	感じ取る力	64.6	79.5
	学習動機	81.6	92.0
	自己効力感	70.0	80.3
	自己責任	78.4	83.3
	自ら学ぶ力	53.0	66.3
	学習スキル	59.9	75.2
	学習定着のための方略	51.4	67.3
	学習計画力	46.0	55.3
	自宅学習習慣	55.0	67.2
	学びを律する力	57.8	68.9
	学習継続力	52.7	66.7
	学習のけじめ	51.8	65.4
	学習環境の整備	56.5	61.5
	授業を受ける姿勢	66.2	77.5

		54.7	70.7
生きる力	(全体)	54.7	70.7
	問題解決力	51.9	74.4
	社会的実践力	51.0	62.1
	心の豊かさ	57.5	72.4
	自己成長力	60.5	72.6

### 文章で自分の考えを的確に表現する力の向上

#### ☆学級全体の力の向上

全校で、自分の考えを的確に書く力の育成に取り組んできた結果、平成17年度石川県基礎学力調査では、書くことの領域で高い通過率が表れた。

大問	小問	領域	出題のねらい	県全体との通過率の差
七 作文	内容	書くこと 作文	目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くことができる。	+16.8
	文末	〃	文末表現に気をつけて書くことができる。	+24.9
	段落	言語事項	句読点を適切に打つことができる。	+17.3
	句読点	言語事項	段落の始めなどの必要な箇所を改めて書くことができる。	+10.0

毎時間、短時間であっても「書くこと」を積み重ねてきた。子どもたちにとって「書くこと」は自分の学びを整理したり、考えをまとめたりするなど、友だちと伝え合いながら学びを進める上でなくてはならない学習になっており、その価値を実感することができていた。

#### ☆個の力の向上

学級全体が向上しているように見えても、その中で思うように力がついていない子は必ずいる。

そこで特に学習日記において見取りの視点（資料B）をもとに一人一人の子どもがどの状態にあるのかをていねいに見取り、評価しながら進めていった。そうすることで個に応じた支援ができ、「自分

とのかかわりの見えないあらすじだけの記述」や「友だちや教材とのかかわりの見えない独りよがりな記述」しかできない子どもを1年目の11月には0人にすることができた。友だちとかかわり合い、伝え合いながら学習する力がついたと言える。

平成16年度 5年生

①	前期（4月）	友だちや教材とかかわらせながら書いている（視点ABCD）	自分の学びについて既習や次時とつなげて書いている（視点A→D）	主に、事実をあらすじのように書いている。（視点A）
		4人	22人	12人
②	前期（7月）	11人	22人	5人
③	後期（11月）	34人	4人	0人
④	後期（12月）	自分の学びや成長を友だちや教材とかかわりを明確にして書いている（視点ABCD）	友だちや教材とかかわらせながら書いている（感想のような記述）（視点ABCD）	0人と判断できたことから、見取りの視点を見直し
		15人	23人	

## 課題

2年間を通して、子どもの自ら学ぶ力・自己評価力を含めた学力を向上させようと取り組んできたが、単元の目標のなかでも国語科としてつけたい言語能力の分析にあいまいな部分が多い。その原因は、単元の目標にある子どもの言語能力をより具体的な姿におろして、明確に指導にあたることができていなかったからだと考える。

また、子どもの実態を見極めることができず、高い目標をかかげてしまった結果、子どもの課題意識を生むことができず、教師が引っ張りながら、子どもの能動的な学びを妨げてしまう授業も多かった。その原因もやはり、言語能力の具体的な姿を教師がイメージできていなかったからだと思う。さらに、どのような道筋をたどればその力がつくのかという具体的な指導計画も不明瞭だったからだと考える。

それらの反省をふまえ、今年度は3年生で、「自ら学ぶ力・自己評価力」の育成とともに、「言語能力」をできるだけ具体的な姿で目標設定し、実践を進めているところである。

